

Manuia NO.4

青年海外協力隊西サモアOV会機関誌

平成9年4月26日発行



第2回青年海外協力隊西サモアOV会総会
(平成8年6月8日 於：中野クラブ)

「第4号会報発行に当たって」

会長 山崎 義行

宅内電話工事 (6212 次隊)

今般、皆様方の御協力を持ちまして第4号会報を発行できましたことは、ひとえに皆様方の御協力の賜であり、心より御礼申し上げます。さて、先日、私の勤務するNTTの「青年海外協力隊初任達30年記念式典」なるものが新宿で開催されました。およそ150人の協力隊OBと副社長を初めとするNTT国際関係者、JOCV事務局やJICA関係の諸先輩方のご臨席を得て、盛大な式典となりました。私が驚かされたのは30年前にNTTから派遣された第一号隊員の方は、以外にも女性で現在もNTTに勤務されており、式典の最後に挨拶をされました。同OBは「定年したら、今度はジュニア隊員に・・・」などと話されるほど、若々しくはつらつとしておられました。また、西サモアのOBも十人近く参加されており、今は伝説の中にしか生きていないと思われたOBの方ともお会いすることができました。式典後の立食パニー

イ一の途中には、隊員の活動記録のビデオが会場の2台の大画面に映し出され、我が役員でもある安達OB (62/2 通信電力) の若き日の姿に西サモア OB 一同、惘然としておりました。一口に30年と言いましても、最初の頃の隊員の方々のご苦勞が伝わってきたらうかとお察し申し上げます、また私たちもその歴史の一端を担っており、OBとしての役割もまた考えなければならぬのでしよう。あの南の国に第一歩を踏みしめた時を思いだし(決して“ツシタラのプーアル”や“Valima”を思い浮かべてはいない)、もう一度自分を見つめなおそうではありませんか。最後になりましたが、当会も発足4年目を迎えておりますが、今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

今回は、我々OB・OGが赴任中に公私共にお世話になり、現在も御活躍中である歴代JICA職員の方々には赴任中の西サモアに対する想い出や現在の近況について掲載をいたします。

「西サモアにおいて強く印象に残っていること」

吉川 浩史 (調整員)

昭和50年4～昭和52年10月

「西サモア」それは我々家族にとつての出発地でした。西サモアに駐在し、西サモアとトンガの両国の協力隊調整員として、赴任が内定し、それから嫁さんを探し結婚をして赴任が滞航旅行替わりになりました。一人事務所でもあったので事務所兼自宅という状況でした。当然の事ながら事務所の経理や雑務も家内に手伝ってもらうことでした。長女が西サモア生まれとなりましたが、医学的には、“WHO”の医者達が西サモアの医者達とチームを組んでくれて万全の体制で支援してくれましたし、タスマンヤリ国家元首が男が生まれたら私の名前を、女が生まれたら妹のサラマシーナの名前をあげるといわれ、西サモアでの出産に対して、本当に支援してもらいました。その娘は今年成人式を済ませました。家内は長女の成人になった姿を見ずに3年前に亡くなりましたが、あの美しい公園国家とも言うべき西サモアでの思い出は人々の美しいハイモニーの歌声と共に何時までも私の心の中に生き続けています。

「過去の経験が現在において役立っていること」

小野 睦一 (駐在員)

昭和52年10月～昭和54年9月

西サモア駐在から既に年の歳月が経った。しかし、あの日、あの時の記憶は今だ鮮明に覚えている。その後、20年に亘る国際協力事業の現場で忘れられることなく生かされていることを発見する毎日である。あの時は、広報活動で、ある時は派遣前訓練で、又、ある時は海外事務所であったところである。現在では、西サモアでの2年間の滞在に比べプアリカでの3回約9年に亘る勤務の方が長くなっており、私の心の中に占める想い出もプアリカが大きく占めている。しかし、初めての駐在であった西サモアでの経験は若き時代の財産であり、国際協力を実施する上で、大きく役立っている。即ち「現場からの視点」の重要さである。いつも違った時は、現場に立ち戻りそこを出発点としてきた。国際協力において机上の空論こそ、何の役にも立たないからである。いつの日にか西サモアを訪れあの美しいエメラルドグリーンと美しい人がやさしい西サモアの人々に会いたいものと思っている。

「西サモアにおける人材育成計画」

草野 忠征 (駐在員)

昭和54年10月～昭和57年2月

西サモア、紺碧の海と空、「宝島」の著者のスティーブンソンが愛した島である。そこでの生活は10年前になる。先日、テレビで西サモアの青年が国費留学試験を目指して猛勉強し、見事合格して留学するというドキュメントを観た。これで、西サモアも国費留学の制度が出来たのかと驚いた。西サモア政府も国費を使って人材育成に本腰を入れるようになったのかと頼もしくも思えた。何故なら、私が西サモア在勤中、次のような場面があったからである。つまり、協力隊派遣20周年記念式典をアピアで実施し、祝辞を頂いたトフイラオ・エテイ総理大臣閣下が帰り際に、私に「明日自分の事務所に来てもらいたい」との言葉があった。どの様な難問が出されるのか不安であったが、翌日決められた時間に総理大臣閣下の事務所を訪れた。総理大臣閣下は、「西サモアは島国である、日本も島国である。同じ島国としてどうすれば日本のように経済力の強い国になれるのか、港を作って貿易を強化すべきなのか、それとも水産基地としてやっていけばいいのか、何か良いプロジェクトはないか」との質問がありました。西サモアは、世界市場に勝てる売り物が無い。海外市場まで遠い島が増加しつつある人口を養っていけるだろうか、色々と考えた結果出てきたのが、技術・技能を持った西サモア人の海外進出である。西サモア人は大家族制の中に育ち、親族とのつながりは非常に強く、クリスマス時期、帰省した家族が涙の別れをする光景を飛行場でよく見かけたが、私は、西サモア人の発展のためには、海外で稼いで西サモアの親族に仕送りし、共生することが一番よいのではないかと答えました。西サモアの協力隊は、インフラ整備、理数科教師、保健衛生、など20年前と同じ職種や、協力形態も穴理的な労務提供型の協力が続けられているのでよいでしょう。西サモア発展を維持するためには、この様な協力が必要なのです。西サモア人のおおらかさ、親切さに免じて、協力隊員諸君もおおらかに西サモア人との友好を深めていただきたいと思えます。一方、西サモア帰国隊員におきましても、はるか南海の島に「アイガ」が居ることを思い、未だ交流が続くことを祈ります。

「サモアの印象」

鈴木 信一 (JICA 事務所員)

平成2年4月～平成4年12月

小生は現在西サモアから帰って4年半になります。一昨年の9月からエジプトのJICA事務所勤務しています。サモアでは海周りはすべて海でしたがここでは周りは砂漠です。雨がほとんど降らないため建物も、また僅かばかりの樹木も埃と排気ガスにくすんでいるカイロに暮らしていると、コンクリートの海に囲まれ、青い空の下で全島が緑に覆われているサモアが懐かしく思い出されます。西サモアの滞在を通じていくつかサモアの良い点として心に残っていることがあります。その一つは西サモアの人々が伝統を大事にしていることです。西サモアはポリネシアのなかでは最も古くからの伝統を残している国ですが、ハワイやタヒチ、ニュージランドに住むポリネシア系の人々が西欧文明の恩恵を享受している反面自らの伝統的な文化を失い、アイデンティティの喪失に苦しんでいることに比べると西サモアの人々は頑固といえるほどに自らの伝統を守って暮らしています。勿論西サモアの社会も西欧文明の影響は避けられません。サモアの人々はタイとアイガによる家族の絆と伝統的社会に価値を置き、それを大事にしています。サモアの大家族制度は個人の自我を育てないという面もあります。家族関係が薄れている日本から見ると羨ましい気がします。また、ほかの良い点としては、サモアの人々が開放的で外国人に対して

親切だということです。これも伝統的な文化や価値観とも関係があるのでしょうか、我々日本人から見れば決して豊かではないサモアの一般家族が協力隊員や我々を特別な意識もなくごく当たり前のようにかく家庭に受け入れてくれたことは印象的でした。日本も最近でこそ外国人のホームステイも多くなりましたが、それでも我々の場合には「家が狭すぎる」とか「こんなもので間に合うだろうか」などといった余計なことを考えてしまい、サモア人のような素直なつき合いが出来ません。最後に、是非述べておきたいのは偉大な航海民族としてのポリネシア人の勇氣です。ポリネシア人の人々は、かつてアジアから島づたいに移住を続け、やがてサモア、フイジー、トンガに達し、更にここからタヒチやハワイ、ニューギニアへと大洋を渡って移住して行きました。古代の海洋民族といわれたフェニキア人やギリシヤ人、中世のバイキングにしても基本的には島影を見ながら航行する沿岸航海が中心でしたがポリネシアの人々は粗末な筏や小さな船で何千キロもの太平洋を航海したのです。ポリネシア人が航海に使用した筏や船は必ずと小さくありませんがハワイやニューギニアの博物館で見られます。一見して安定性が高く、造りも頑丈ですがそれでもこうした筏や船で未知の土地を目指して何千キロの航海に乗り出す心遣はどんなものでしょうか。航海の途中に遭難し、目的地に到着できなかった人も少なくなかったはずで、ポリネシアには南米大陸のことでしょうか、航海を続けてやがて白く輝く峰を持った高い山がある土地に達したという伝説があるそうですが羅針盤もなく、星や海流や雲の形を頼りに長距離を航海したことは大変な驚異といえます。サモア人を含め現在のポリネシア人はもうこんな大冒険はできなくなりましたが西サモアに暮らしていて、時に偉大な海洋民族としての先祖の冒険を想像することは楽しいものです。エジプトに比べれば西サモアは本当に小さな島国ですがサモアはどんな小さい国にも豊かな伝統と偉大な歴史があるということを教えてください。

「近況報告」

西本 玲 (JICA 事務所員)

平成 5 年 12～平成 8 年 7 月

早いもので、昨年の夏に帰国してから、8ヶ月。毎日、暑い中、JICA事務所前のビーチロードを歩いたり、たまに並びの“Don't Drink The Water”や“Otto's Leaf Bar”でビールを飲んでいた生活が夢のような気がしています。今は新宿のJICA本部に戻り、書類の山に囲まれて事務作業に追われる日々です。日本で仕事をしつつも、西サモアの生活がどうしても忘れられなくて、しばらくは南の島の椰子の木陰を夢見つつ、なかなか仕事が手につかないこともありました。ついには昨年12月、西サモアへのちよつと早い里帰りをしてきました。12月24日から30日までの一週間の滞在でした。フライトはエアパシフィック。ポリネシア航空じゃないので、時間どおりに飛ぶはずだったのに、半日遅れて24日早朝の到着です。相変わらず大洋州のフライトは甘くありません。半年ぶりに帰る西サモアは懐かしく、またタイムスリップしたような奇妙な感じがしました。フアレオロ空港の朝日はやけにまぶしく感じました。アピアに着いて、何はともあれ昔の職場、JICA事務所に向かいました。駐車場横では、以前と同様に、夜警の“ブジ”がよれよれのラバラ姿で向かえてくれました。JICA事務所の白い3階建ての建物は相変わらずです。アピアの街を歩いてみると、ここ2～3年で結構西洋化され、街並みも少しずつ洗練されて、きれいになってきているのに驚きます。中央銀行ビルの横に6階建ての新政府省庁舎ができたのが3年前。信号も増えて、朝夕は交通渋滞がひどくなりつつあります。一昨年には野菜マーケットが移転しました。昨年3月には時計台から20～30m先の十字路にマクドナルドができました。値段は日本と同じ位なのでサモアでは高級レストランです。同7月にはインターネットのプロバイダーが現れまし

た。同9月の南太平洋芸術祭前後には、キタノツシタラホテルの向いに中国の援助で婦人青年センターが完成し、また旧フリースターマーケット裏は駐車場に変わりました。今回はウポル島とサバイ島の景色を結ぶ Lady Samoa IIに乗ってサバイ島にも行く機会がありました。サバイ島はまだ昔ながらのサモアの景色を残している様でした。ただ、2、3のリゾート風ビーチが出来たこと、北側のアオボまで道路が舗装されてバスが通るようになったらしいことが大きな変化でしょう。ツアジビから続く砂浜は実にきれいで、わざわざ一週間の滞在でしたが、協力隊員の人たちを中心によく遊んでもらいました。短い滞居のため、西サモアを離れるお世話になった人達のごく一部にしか会うことができなかったことが少し心残りでした。おかげさまでまたサモアの生活が忘れられなくなっていました。何年かしたら、西サモアの様子を見に行きたいと思っています。さて、また近況に戻りますが、現在、私はJICA本部にてアフリカ地域の医療協力に関わる業務に携わっています。南太平洋の西サモアから、アフリカ諸国の医療協力を担当することとなり、最初は戸惑いましたが、今はかなり馴染んできました。先日、アフリカのガーナ国に出張した際、現地協力隊調整員の佐藤さん(S602)が西サモア協力隊OBであり、大使館にもサモア人と結着している日本人職員がいると聞いて、なんとも世界は狭いものだと思いました。昨年末の職場忘年会では、何人かの若手職員をそのかして(?)、みんなでサモアダンスを披露したりもしました。結構受けました。帰国後も、たまに隊員OB・OGの人達と飲みに行くこともあり、まだまだサモアをひきづりつつ日々生活を送っています。最後に、現在西サモアで日々御苦労されている協力隊の皆さんのご健康とご活躍をお祈りするとともに、青年海外協力隊西サモアOV会のさらなるご発展をお祈りいたします。

「第2回 西サモアOV会 総会」報告

安達 博

通信電力 (S622 次隊)

昨年6月8日、「第2回青年海外協力隊西サモアOB・OG会 総会」が東京・中野クラブで開催されました。総会当日、会員約30名が忙しい中にも関わらず全国各地から駆けつけて頂きました。出席者の顔ぶりは、2年ぶりに再会を交わす方、帰国後初めて会う懐かしい方、最近帰国したフレッシュな方など多様な会員の出席で総会が開かれました。はじめに、役員から活動状況等の報告・審議がされ、参加者の満場一致で丁承・承認されました。また、この中で議題の一つである本会の名称を「西サモアOV会」に変更する提案が出され、満場一致で承認されました。これは、本会と同様に活動している青年海外協力隊OB・OGの名称が「OV会」と称するのが一般化していることから、時流に合わせた名称と致しました。一方、遠くから参加して頂いた会員からは、遠方から総会に参加する会員には一斉旅費等の補填があれば、より多くの会員が参加して頂けるのではという意見、本会の活動を更に活発にさせる上で、新たに帰国するOB・OGへのピーアール活動の充実が必要などの意見が寄せられました。総会后、恒例の親睦会が行われ、参加者一人ひとりからは近況報告等があるなど、帰国後十数年の方から今春帰国した方まで多彩な参加者の交流となりました。親睦会のお開きでは、今春帰国したOGによる「サモア流 手締め」で2年後の再会を約束し散会となりました。最後に、参加して頂いた会員の方々、今回参加出来なかった会員の方々、2年後総会で一同することを祈念し、総会が無事終了しましたことを報告いたします。

「和光学園文化祭の支援」

大塚 一雄

シラムビシヨ (S69/3 次隊)

昨春秋、突然 JICA 啓発興より、東京町田市にある “和光学園中等部” の生徒へ対し、同生徒が学園祭にてサモアについての研究発表をするためサモアの情報提供をして欲しい旨、依頼がありました。JICA としてはサモアに関する詳細状況を把握していないため、結局、当 O V 会にお鉢が廻ってきたようです。私としても当会の存在をアピールする良い機会であること、また、設立趣旨に合致しているとの判断から JICA からの要請を受けることにし、同学園中等部 2 年生の男女各 2 名づつの 4 名に、私の事務所に来て貰うことにしました。彼らのクラスでは世界の “民族” というテーマにて、各グループが研究発表をするのでした。彼らの一人の生徒が「レピラギ」を読んでサモアに興味を持ったことから、研究発表のテーマを “サモア” に決定したものでした。昨今の中学生がサモアを知っていたことには驚きました、私などは協力隊でサモアに派遣が決まって、初めて世界地図にて、その国の存在を知った様な有り様で、彼らの情報力とその好奇心には驚かされました。彼らの研究テーマでは、「レピラギ」に記載されている内容が現在のサモアにどのくらい残っているのかということとを調べることで、その頃と現在との比較だった様です。ちょうど私が昨年 5 年ぶりにサモアを訪問したので、その際、撮影した写真、感じたこと及び協力隊時代の経験等を交え説明を行いました。彼らとしては、レピラギが生きた時代が現在に至るまで多く生き残っていることを期待していた様でしたが、現実とは随分と西洋化がされていることを知り、少しガツクリした様子でした。これは、彼らだけではないと、私も同様の感情を抱いております。ひさしぶりにサモアを訪問して目にした発展ぶりには目をみはるものがあった、その一方で、自分の知っているサモアが失われる様な寂しさを覚え、その発展を複雑な想いで見つめたものでした。彼らに協力した手前、その成果がどの様に発表されているのかが非常に興味があり、平成 8 年 11 月 日に、彼らの文化祭を訪れてみました。この学校は小田急線の “鶴川駅” からバスで約 15 分位の住宅地にある学校で幼稚園から高校までが同一敷地にあり、当日は中等部と高等部の合同文化祭ということもあり、かなりの賑わいでした。受け付けでかわいひ中等部の女生徒から渡されたパンフレットに “民族” と書いてある教室へまっすぐ向かい、中へ入るとすぐ入り口に横造紙に大きな文字で書かれた “サモア” の文字を見つけました。サモアの概要については、彼らの手で調べた地理や歴史等と私が説明した内容が要領よくまとめられており、民芸品の展示や写真等による説明も加わって、良い研究発表となっておりました。協力のし甲斐があったなど一人悦に入るとともに、今回、サモアに興味を持った子供たちの中から将来、サモアのために活動してくれる青年が生れるだろうかなどと、自分が親シカに近い心境になっていることに充分気づきつつ、なおも嬉々とした想いが込み上げてくるのに素直な喜びを感じたひとときでありました。物・金・人・技術を現地へ送り込むという直接的な支援活動に我々 O V 会としては、現在直接的には携わっていませんが、その国を理解する人々を増やす、いわば伝道的な役割を果たせれば、その貢献度は非常に高いものであると考えます。そう思いながら、なかなか得られずにはいた機会を思わぬ形で得ることが出来、今後の活動につながるものになると考えております。

「19 年度懇親会模様」

安田 和幸

シラムビシヨ (H2/2 次隊)

忘年会シーズン真っ只中の 12 月 7 日土曜日、新宿のとある居酒屋で O V 会の懇親会を行い、サモア人

研修生2人を含む10人が集いました。顔ぶれはというと、私を含め会の幹事をしている安達さん(62-2)、岩本さん(元-1)、藤田さん(元-1)、そしてパピの度に群馬から駆けつけてくれる市川勝彦さん(元-2)といったいつもの顔ぶれに加え、私の同期で今度パソナデヴィュへMCとして出発する乳原初子さん、サボ帯在中に私が同居し空き巣にはいられる等の思い出深い体験を共有した日野治さん(元-3)、帰国したての松本宏子さん(4-2)、そして大蔵省、厚生省から派遣されてきたサボ人研修生2人(残念ながら名前を思い出せません。。。ごめんなさい。)でした。例によってサボソムで集まってきた面々でしたが、岩本さんの挨拶に続き、私にとっては日々の英語による自己紹介で少し緊張し、あとは英語、サボ語、日本語がいりまじったの雑談で楽しい時間が過ぎてゆきました。帰国したての松本さんの流暢なサボ語に関心しながら、サボでの生活を思い出すと話につきず、全員で記念撮影をした後、飲み足りない私たちは群馬へ帰る市川さんと、広尾で研修中の乳原さんを見送り、更に次なる止まり木を探してにぎわう夜の新宿の街をさまよひ、2軒目も居酒屋へ。酔いひがまるるにつれてますます話がはずみ、いつしか、いつ終わるともなく続いたあのサボでのパチのような様相を呈してきました。各々の心に蘇ったサボでの懐かしい思い出にひたり、その名残を惜しみながら解散し、家路についたころには、かなり夜が深くなっていました。私は、千葉の自宅に日野さんを誘い、更に深夜まで飽きることなく、飲んでしゃべったのでした。今回お時期が忘年会イベントと重なってしまい、あまり多くの方々に参加して頂けなかったのが残念でした。今後もOV会の会員の皆様やサボ人との交流の機会を設けて行きたいと思っておりますので、機会がありましたら是非御参加下さい。幹事のなかまに知り合いがいらないために参加しづらいとお思ひの方もおりでしょうが、目的は会員の輪を広げていくことにありますので、遠慮なさらずに御参加下さい。

「平成9年度西サモア研修員決定！！」

平成9年3月現在、2名のサモア人が県ベースの研修員として受け入れが決定しております。

私たちが西サモアでお世話になったファミリーとまではいきませんが、夢と希望と不安で一杯の西サモア研修員の方々のために、少しでもお役に立てればと思っておりますので、近くの会員の皆様はお時間がありましたら、是非連絡を取って頂きたいと思ひます。但し、研修期間、研修場所、連絡先等については決定しておりませんので、連絡を取って頂ける方は、西サモアOV会事務局(代表者 63/3 大塚)に連絡して頂ければ幸いです。わかり次第連絡を差し上げます。来日する研修員は、以下の通りです。

氏名	TORIO TOMOANA	27 歳	男
推薦隊員	森山 昭彦	自動車整備	H5-3 次隊
職種	建設機械		青森
研修内容	重機、大型自動車(トラック、ダンプ)の整備、保守の研修。特に、コソツ社、三菱社の油圧装置、電子制御装置の整備、ディーゼルエンジンのインジェクションの整備の研修を希望している。		

氏名	TAUTAI SAMOA LEAFA	30 歳	男
推薦隊員	小林 光夫	電気機器H7-1 次隊	山梨
職種	電気機器		
研修内容	電気設備保安業務—無線機器を含めた電気機器(電動機・発電機・配電盤等)、計		

装品（圧力計・温度計・水位計及びスイッチ・制御回路等）の保守・整備・管理方法の研修です。

役員会活動内容

私ども役員会は下記のとおり活動を行っておりますことをご報告いたします。

- ・ 96年 4月20日 (土) 総会開催、会報作成及び住所録作成の準備作業
- ・ 96年 5月18日 (土) 総会開催、会報作成及び住所録作成の準備作業
- ・ 96年 6月 8日 (土) 第2回青年海外協力隊西サモアOB・OG総会開催
- ・ 96年 6月15日 (土) OV総会反省会及び第3号会報発送準備作業
- ・ 96年 8月 3日 (土) 第3号会報発送作業
- ・ 96年 8月31日 (土) 国際協力フエステイナル準備作業
- ・ 96年 9月28日 (土) 同上
- ・ 96年10月 5日 (土) 国際協力フエステイナル開催 (於：日比谷公園)
6日 (日) 同上
- ・ 96年10月19日 (土) 国際協力フエステイナル反省会
- ・ 96年11月 6日 (土) 和光学園文化祭視察
- ・ 96年11月16日 (土) 親睦会準備作業及び第4号会報発行準備作業
- ・ 96年12月 7日 (土) 親睦会開催
- ・ 97年 1月18日 (土) 第4号会報発行準備作業
- ・ 96年 2月15日 (土) 第4号会報発行準備作業
- ・ 96年 3月15日 (土) 第4号会報発行準備作業

今後の予定

- ・ イベント実施 (1回/年)
- ・ 国際協力フエステイナル参加 (本年9月末)
- ・ 会報発行 (2回/年)

会計報告 (1996年度)

会計 安田 和幸 (H2/2次隊)

以下のとおり96年度分の会計を報告致します。

収入の部		支出の部	
95年度繰越金	163,509円	事務用品購入費	7,302円
年会費(96年度分)	152,000円	通信費(業書代、会報等送料)	57,950円
(97年度分)(※1)	18,000円	第3号印刷代	84,753円
JOCA助成金	50,000円	JOCA加盟年会費	30,000円
第2回総会宴会残金	873円	特7人懇親会費負担(※2)	10,000円
国際協力フエステイナル収益金	23,041円	97年度への繰越金	217,418円
計	407,423円	計	407,423円

※1 '97年度分年会費は、第2回総会出席者の中で、'96年度分と合わせて同時に収めて貰いた9名の方の分を計上しました。

※2 昨年12月7日に開いたOV会の懇親会に参加されたサモア人2名分を会費から支出しました。

編集後記

会員の皆さんこんにちは。会報も第4号となり、記事の内容、編集者共にマンネリの傾向が出てくる時です。運営側としてはそうならない様、最善の努力をしようと思いが。さて、今会報、お読みになつてどうでしたか。皆様各々に感想をお持ちのことと思います。この会報を読むほんの一時の間、皆様がサモアで過ごされた時の一コマでも思い出して頂ければ幸いです。私も、編集にたずさわりながら、私が現地へ過ごした時のこと又、当時の事務所のスタッフの方々を思い出しております。

Berneen Tounsoon...-昨年までオー克蘭ドの HotelCentra で働いていました。現在は転職した様子。

Helena...今も元気に事務所にいるようです。

Lea...自慢の所で La Godinate や Tustiana でジャズを歌っています。

などなど、すべての事が良い思い出となるうとしています。しかし、これらを良き経験として、再びサモアや他の開発途上国で何かお役に立ちたいと思つてます。そんな思いをさせてくれるサモアの皆さんに、
ヌイア！！！！！！ (岩佐 62/2)

世間では花見だというのは、小生は本日も残業しています。ところで、西サモアから帰国して早くも8年の月日が経つのに、編集メンバーが変わらないのはなぜなのか？ 我こそは「編集委員になり、未来がある西サモアOV会を創る」という方を大募集しています。(安達 S62/2)

昨年初めて国際協力フェスティバルに参加させて頂きましたが、まず最初に驚いたことは、参加団体の多かつたことでした。また、西サモアに行ったことのある人や子供が西サモアに住んでいるというご両親とお話しができて、とても有意義な1日を過ごすことができました。自分の身近なところでボランティアなどと言う大げさなものでなく、思まれない人達のために、何かできることばないかと思つてはいるものの、普段の生活の中で時間が取れないことを言い訳に、何も行動を起こせない自分に苛立ちを感じています。ボランティアとは言えません、西サモアOV会役員も何もできない自分への言い訳で引き受けているのかもしれない。私と同じように何かしたい！！でもできないと言う方がいらつしやいましたら是非私たちと一緒に西サモアOV会を盛り立てて行きませんか？ (新井 S63/1)

昨年度、5年ぶりにサモアを訪問しました。赴任していた当時とは随分と変わり、サモアの発展には驚かされました。その反面、我々のサモアが失われるような気がしましたが、サモアのフアミリーを訪問したとき、昔のように暖かく迎えられることがとても心に残りました。皆さんも機会があればサモアを訪問されたらいかがですか。(大塚 S63/3)

平成8年10月5・6日の2日間、東京の日比谷公園にて、恒例の「国際協力フェスティバル」が開催され、我が西サモアOV会も民芸品およびペンケケの販売や持ち寄った写真の展示等を行いました。当日は、OVおよび関係者が集まり、また、多数の一般のお客さんが集まり、盛況裡に終えることができました。

した。また今年も参加を予定していますので、その節は皆さんも是非お立ち寄り下さい。

本当は、実施報告を書くように分担されていましたが、多忙および怠慢により締め切りに間に合わず、詳細な報告ができず申し訳ありません。(岩本 H11/1)

国際フェスティバルでパンケケを作りました。サモアでは、あまり食べることがなくどんな味で作리方等分からずレシピを見ながら作りました。次回は、より美味しいパンケケを作りますので来てください。

(藤田 H11/1)

投稿に御協力頂きました方々、本当にありがとうございました。(編集員一同)

以 上